

「第1回産業日本語研究会・シンポジウム」の開催について

平成22年1月

産業日本語研究会世話人会

顧問：長尾 眞（国立国会図書館 館長）

代表：井佐原 均（豊橋技術科学大学）

辻井 潤一（東京大学）

橋田 浩一（産業技術総合研究所）

山崎 誠（国立国語研究所）

隅田英一郎（情報通信研究機構）

横井 俊夫（日本特許情報機構 特許情報研究所顧問）

1. 開催趣旨

社会の情報化が進展していますが、日本における情報伝達の基盤となる言語は、いうまでもなく日本語です。一方、グローバルな経済社会での情報の多くは、事実上の世界標準言語といえる英語によって伝達されています。米欧先進国は、情報伝達言語の英語への標準化に対応するために、英語を母語としない人たちを対象とした英語教育の仕組みづくりや、英語を他の言語に翻訳しやすくするための取組みを多く行ってきました。

我が国においても、日本語を客観的に分かり易く用いるための努力が各方面で行われてきました。例えば、使用される用語の規定を中心にした産業界各分野における努力、日本語テクニカルライティングや日本語テクニカルコミュニケーションに関する関連団体の努力、日本語ワープロや機械翻訳などの日本語処理技術に関わる分野における努力などです。

我が国の経済の活性化と国際競争力の強化が以前にも増して叫ばれる今、産業にまつわる情報を表現する日本語を、これまで以上に、情報伝達力と情報発信力が強化された日本語に変革することが必要です。今まで各方面で行われてきた、日本語を客観的に分かり易く用いる努力の成果として得られた多くの知見の蓄積を体系的にまとめ上げることが緊急の課題となっています。

そして、今、日本語に関する多くの知見や日本語処理技術の蓄積をまとめあげることにより、かつて英語圏で試みられた Controlled English のような制限言語の枠を超越し、かつ、情報伝達力と情報発信力が強化された新しい日本語の枠組みを作り上げることができる時期にきています。

このような現状認識に立ち、産業分野・科学技術分野における情報発信力や知的生産性の飛躍に貢献するとともに、わが国産業界全体の国際競争力の強化に資するような新しい日本語の枠組みのあり方について総合的な議論を行うために、シンポジウムを開催いたします。

「産業日本語」とは、情報を正確に伝達でき、かつ、コンピュータ処理されやすいように情報伝達力と情報発信力を強化した、産業や科学技術の記述に用いられるべき、新しい日本語の枠組みです。

このような「産業日本語」を検討するにあたっては、医療分野や司法分野など他分野における理解しやすい日本語の使用に関する取組みと密に連携することはもちろん、言語関連分野にとどまらない様々な研究分野の方々、言語関連ビジネスを展開されている企業の方々、関係府省庁の方々との協調が不可欠です。

本シンポジウムでは、様々な分野における理解しやすい日本語の使用に関する取組みについてご紹介させていただきます。そして、自然言語処理、言語学、知識処理、日本語を用いた言語サービス、言語ビジネスといった日本語に関わる各界の有識者が、産業用文書の作成に適し、産業分野・科学技術分野における知的生産性の飛躍に貢献すべき「産業日本語」のあり方について議論し、その研究・開発・普及活動を先導する場としての「産業日本語研究会」の発足を提案させていただきます。

本シンポジウム、そして、「産業日本語研究会」が、関係各位の叢智を結集し、我が国の経済の活性化と国際競争力の強化に資する「産業日本語」の研究・開発・普及に向けた活動を支援する場となるように、皆さまのご参加をお願いいたします。

2. 今後の活動について

(1) 産業日本語シンポジウムの開催

産業日本語に関する研究成果や活動成果を発表・情報共有する場として、年に1回程度、シンポジウムを一般公開形式で開催します。

主催： 高度言語情報融合フォーラム (ALAGIN)

言語処理学会

一般財団法人日本特許情報機構 (Japio)

(2) 産業日本語研究会 Web サイトの開設と運営

産業日本語研究会の活動スケジュール、情報交換、研究会成果の公表等を行うために、産業日本語研究会 Web サイトを開設・運営します(予定)。

(3) その他

ALAGIN「産業日本語推進部会」、言語処理学会、Japio等の各団体は、各々、産業日本語に関する研究活動を進めることとします。

各団体における活動については、産業日本語研究会 Web サイト上で、その研究成果の発表・情報交換等を行うこととします。

以上

事務局担当：高度言語情報融合フォーラム (ALAGIN) 事務局